

単元名「時間・空間をこえて繋がれ～和歌山とニュージャージー～」

1. 目的・目標

目的

海外アメリカニュージャージー日本人学校の友達と英語で交流することで、多文化共生社会への興味関心を高め、多様な人たちとのコミュニケーションを楽しめるようになる。

目標

これまでの外国語活動・外国語で学んだことを活用したり、これから外国語で学ぶ内容を見通したりしながら、ニュージャージー日本人学校の友達に自分たちのこと（本校や和歌山の魅力・自分たちが学んでいることなど）を伝えることを通して、自分たちはやればできるという自己効力感を高め、様々な立場の人と交流したいと考えたとともに、より分かりやすく伝えるためにはどのようにすればいいのか考えることができる。

評価基準

- 自分の伝えたいことに必要な表現について理解している。（知識）
- 自分の伝えたいことを、既習の語句や基本的なフレーズを中心に使って分かりやすく表現している。（技能）
- 自分の伝えたいことが、ニュージャージー日本人学校の友達に分かりやすく伝わるための表現を考えて話している。（思考・判断・表現）
- 自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするためにお互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

2. 教科の本質と教材について

外国語の本質は、外国語でコミュニケーションをとることだと考える。本学級の子供たちには、自分たちが伝えたいことをしっかりもった上で、外国語を使ってコミュニケーションをとることの楽しさを感じることを願っている。

海外で生活している友達に、自分たちの学んでいることに興味をもってもらうためにどうしたらいいのかを考えながら、これまで習ってきた英語のフレーズを活用して表現する。

学習経験をつないで自己表現をすることの楽しさを実感し、多様な人とのコミュニケーションを楽しむ姿を願っている。その中で、子供たちが話す・聞くだけでなく、読み・書きができることの大切さを実感できるようにしたい。

3. 子供の実態（抽出児）と単元末に期待する本質を味わった子供の姿

本単元では、全員に多様な英語で伝えることの楽しさを実感してほしいと願っている。その上で、2名の抽出児を設定した。

5F A児

英語が堪能で小学校の学習内容以上の知識・技能を身に付けている。今回、ニュージャージー日本人学校の友達と交流することを通して、自分が身に付けたことを発揮できた喜びを味わってほしい。

6F B児

両親の外国語を学んでほしいという思いが強い。そのことが、本人の英語を身に付けたいという意欲につながっている。小学校外国語活動・外国語で学ぶ英語フレーズ一覧を見ながら学習を進めている。今回、B児が既習内容を意識した学びを行い、またその姿が、他の子供にも広がっていくことを期待している。

※全員に、多様な人に英語で伝えることの楽しさを実感してほしい。

4. 本單元における教科の本質を味わうためのしかけ

本実践は、海外の友達と交流することを通して、自分たちはやればできるという自己効力感を高め、多様な人たちとの交流をしたいと考えるときにも、分かりやすく伝えるためにはどうすればいいのかを考えることを目指すものである。そのような子供の姿を具現化するために、4つの「しかけ」を行う。

しかけ①海外に住む友達との交流

ロイロノート上に、ニュージャージー日本人学校5年生と本校5・6年複式学級の子供たちが共有できる授業を開設し、オンデマンドの交流をしていく。それにより、リアルタイムでは難しい英語での表現を、自分のペースで伝えることができる。外国語で伝えたいという目的意識も高まっていくと考える。

しかけ②学級担任の願いを引き継ぐ

専科は各教科の専門性だけでなく、子供理解が大切だと考える。その中で、担任の願いを共有して専科の授業を進めていくことで、子供の学びを途切れさせないと考える。

しかけ③外国語での既習を意識し、今後の学びを見通す

外国語は学習の積み上げ内容が他教科に比べて少ない。そこで、子供にこれまでの学習内容・今後の学習内容を掲示することで、子供がこれからの学びに見通しをもって学べると考える。

しかけ④カリキュラム・デザイン

担任の授業と関連させたカリキュラム・デザインをすることで目的意識をもって英語での表現が実現すると考える。週度のALTによる外国語の授業を活用・発揮の場に位置付ける。

5. 学習の流れ（全15時間）

1時	単元の流れを確認する。【態】
2時	自分たちの考えを英語で伝えるための準備していく。【知】
3時	ニュージャージーからの動画を視聴する。【知】
4・5時	自己紹介動画を撮影する。【思】
6・7時	ニュージャージー日本人学校の友達に送る発表のセリフを考える。【知】
8・9時	ニュージャージー日本人学校の友達に送る発表の練習をする。【思】
10・11時	ニュージャージー日本人学校の友達に送る発表映像を撮影する。【思】
本時12・13時	映像を見直してから、ニュージャージー日本人学校の友達に送る発表映像を撮影する。【思】
14・15時	ニュージャージー日本人学校の友達からの返事を視聴する。【知】【態】 自分たちが総合的な学習の時間で学んだことや、本校や和歌山の魅力で伝え、ニュージャージー日本人学校から送られてきた動画を視聴し、質問をする。 ※これまでの学習を想起した上で、ICT 機器と ALT の先生の力を借りて、より良い表現を試行錯誤しながら学んでほしい。

自分の思いを伝える相手の環境等を考え、既習内容を活用したりしながら、自分の思いを相手に伝わるように話そうとしている姿を引き出した。

本単元の後、和歌山大学の留学生にも本校や和歌山の魅力を伝えることを計画している。

6. 本時の目標

自分の伝えたいことが、ニュージャージー日本人学校の友達に分かりやすく伝わるための表現を考えて話している。

(思考・判断・表現)

7. リフレクション

7. 1. 学習課題の設定

子供が他者と協同しながら自分自身の学習プロジェクトや学習課程を計画できるようになるためには、意欲的に学びたい学習課題が必要だと考えた。5・6年複式学級の子供は、日頃から自由進度学習を進めている。また、英語が堪能な子供が数名いる。以上の実態を踏まえて、この学級の子供が意欲的に学びたい学習課題の条件を考えた。

- ① 外国語を学ぶ必然性を感じることができる
- ② 外国語を学んで良かったと感じることができる
- ③ 外国の文化を知ることができる
- ④ 日本の文化等をもう一度見直すことができる

上記の①～④を大切に、アメリカ・ニュージャージー日本人学校の5年生と ICT 機器を活用しながら交流することで仲良くなること、その交流を続けながら2学期末に和歌山大学で学んでいる外国人の学生と対面で交流することで仲良くなることを学習課題とした。

7. 2. 子供の様子

6月からロイロノートを活用して、交流を開始した。まずは、ニュージャージー日本人学校の5年生から英語の自己紹介動画が送られてきた。その動画を5・6年生がペアになって視聴した。子供は、「英語の発音がきれい、何と言っているのだろうか。」と言いながら、友達と何度も動画を見ている様子から、ニュージャージー日本人学校の友達が送ってきてくれた英語を理解しようとする気持ちが伝わってきた。ペアの話し合いの後、全体で話し合いながら、どのようなことを言っていたのかを確認していった。

その後、本校の子供が、英語で自己紹介動画を作成して送った。自己紹介を撮影して送ることは、何度も撮り直しができ、目の前に本人がいないため、対面で行うよりも子供が緊張しないと考えていた。実際は、まだまだ仲良くなれていない英語が上手な相手に自己紹介をすることで、自分たちも完璧な英語で伝えたいと思わせていた。そのため、日頃流暢に英語で話している子供も含めて緊張してしまっていた。ニュージャージー日本人学校の子供から、自分たちが送った自己紹介動画について「英語が上手だった」「もっと仲良くなりたい」と言われたことで、交流に対する意欲を高めることができていた。

授業以外でも互いの休憩時間の過ごし方や給食などを英語や日本語で伝え合うことができていた。そのようなオンデマンドの交流を続けていく中で、本校の多くの子供が双方向型の交流をいいと考えていたため、ZOOMを活用して2度の交流を行った。互いの学校生活や国の特徴などを伝え合う中で、活発に質問をすることができていた。この交流によって、もっとアメリカのことを知りたい、もっと和歌山や和歌山大学教育学部附属小学校のことを知ってもらいたいと思うようになった。そこで、ニュージャージー日本人学校の子供が和歌山や自分たちの学校のことを好きになるための動画を撮影することになった。前回の自己紹介動画の時に比べて、緊張も和らぎ、ペアでアドバイスをしながら撮影を進めることができていた。成長を感じたのは、互いのアドバイスの内容が、文法的なことだけでなく、「もっとこのように言ったほうがおもしろいし伝わる」という相手意識をもったアドバイスができていた場面だった。これは、1学期からの交流により相手のことを知り、もっと仲良くなりたいと思う気持ちが高まっていたからだと考える。ニュージャージー日本人学校の友達からは「和歌山県や和歌山大学教育学部附属小学校のことを知れて良かった、行ってみたい」といったコメントをもらうことができた。その後も、ロイロノートを活用して、互いの様子を自分たちのペースで伝え合っている。ニュージャージー日本人学校の子供との交流を通して、英語を使った交流の楽しさを知っていった。子供の様子から、和歌山大学で学んでいる外国人の学生と交流することでさらに交流する意欲が高まると考えた。インドネシア・ウズベキスタン・中国・マレーシアから合計4人の学生が来てくれることになった。当日の3週間前に交流することを子供に伝えた。交流で大切にすることは、ニュージャージー日本人学校の友達との交流と同じく「仲良くなる」ことになった。交流当日は4グループに分かれて活動することを伝えた。自分たちで、どの国の人と交流したいのかを考え、どうしたら仲良くなれるのかを考えて活動内容を決めていった。交流会当日、最初は子供に多くに少し緊張した様子があったが、自己紹介をしたり、学校案内をしたりしていく中で、緊張が和らいでいった。それぞれのグループがジェスチャーを入れながら、日本語を使わず楽しく交流ができていた。学生も子供も「楽しかった、もう一度会いたい」と思える交流になっていた。子供の中には、「もっと英語を勉強したらもっと楽しくなる」と言っている子がいた。

7. 3. 環境設定

子供たちの学ぶ様子を見ていて、単元に入る前に本単元における教科の本質を味わうためのしかけだけでは、意欲的に学ぼうとする子供の姿を引き出すことが難しいと感じた。そこで、自分たちで学習課題に向かっていきやすいように、交流のねらいやルーブリックを可視化・共有化を行った。また、これまで学習してきた英語のフレーズも可視化・共有化した上で、交流において使いやすいフレーズをみんなで確認した。また、自分たちで学習を進められやすいように、ロイロノートの資料箱に、教科書で学んだフレーズや単語の音声や動画を保存した。これにより、子供はiPadを使えばいつでもどこでも自分のペースで英語の学習をすることができる。また、子供が作成した英文を日頃か

らALTにチェックしてもらいアドバイスもらうように学習を進めた。完成した英文をALTに見本として発音してもらい、その音声もロイロノートの資料箱に保存した。これにより、子供はネイティブの発音を何度も聞いて、発音練習をすることができた。

7. 4. アンケート結果

ニュージャージー日本人学校・留学生との交流を含めた外国語の授業の振り返り

①英語をもっと話したい・聞きたい身に付けたい)を思いましたか。

そう思う8人 どちらかいうと、そう思う5人 どちらかというと、そう思わない3人 そう思わない0人

②英語でコミュニケーションすることを楽しいと思えましたか。

そう思う8人 どちらかいうと、そう思う7人 どちらかというと、そう思わない0人 そう思わない1人

③様々な人(ニュージャージー日本人学校の友達や留学生など)と交流するために自分(たち)で学習を進めることができましたか

そう思う7人 どちらかいうと、そう思う7人 どちらかというと、そう思わない1人 そう思わない1人

④外国語の授業で友達と一緒に協力して学習することができましたか。

そう思う7人 どちらかいうと、そう思う8人 どちらかというと、そう思わない0人 そう思わない1人

⑤外国語の授業で成長したと思うところはどんなところですか。

・知らなかった質問の仕方がわかった。・英語をたくさん喋ることができた。・単語とか文章を読む力がついた。
・言葉の読み方がわかった、詳しくなった。・英語力、外国の方と話す感覚・筆記体をスムーズに描けるようになった。
・単語を覚えた。・英語を話す。・英検を受けてみようと思えた。・英語の時間だけでなく家で勉強している。
・恥ずかしながら言えるようになった。・英語を少しだけ話せたり、書けたりできた。
・単語を覚えた。・外国語で話す力・みんなの前で英語を言ったりする事で、英語で留学生とかと話せた。・英単語や左右の英語の発音などを喋れるようになった。

⑥外国語の授業の感想を自由に書いてください。

・毎回?月曜日に単語の練習みたいなのをすることで発音が良くなった。・英語の文を書けるようになりたい。・3学期も楽しく英語を学んでいきたい。・楽しいのもっとやりたい!・実際英語は苦手だったけれども今は少し得意になった気がする。中学の英語もしっかり学びたいと思った。・他の国の言葉まで習えるのは一石二鳥で便利だと思いました!・会話が楽しかった。・楽しい、もっとやりたい。・本物の外国人と交流することでその国により興味をもてたり、本場の発音が聞けたりするから面白い。・英語が難しかった。・特にないです。・色々な国の人と話せて勉強になったし楽しかったです。・英語が話せたり分かったり、かけたりする時がとても嬉しかったです。・テストのリスニングがちゃんと聞き取れてなくて悔しい。・僕は、英語が得意な方ではないけど、授業がわかりやすく、楽しいです。一言で言うとめっちゃたのしかった。なぜならまあ英語は結構好きなんやけど本を読んでくれたり、ミニゲーム(?)みたいなのがあって楽しく学ぶことができたからよかった。

7. 5. 考察

抽出児Aは毎日の自学でも英語をするなど、英語を得意としている。英語でアメリカにいる子供や留学生と交流することで発揮することを通して学んだ成果を実感できていた。ニュージャージー日本人学校の子供にメッセージを送るための話し合いにおいては、もっと相手を喜ばせたいといった他者意識をもって学んでいた。また、抽出児Bは、交流活動を通して、英語に興味をもつことができた。これまで以上に間違いを恐れず積極的にコミュニケーションをとることができた。英語を苦手と感じている子供も、今回の学びをきっかけに英語を話すことが楽しいと感じることができていた。ニュージャージー日本人学校の子供との交流活動における学習課題のしかけである①~④の中で①~③については達成できていた。しかし、④日本の文化をもう一度見直すことは十分できなかつた。単年の実施ではなく、6年生で達成する姿を明確にし、3年生から計画的に外国語活動・外国語を行う必要がある。

また、魅力的な学習課題に向かって意欲的に学習を進める上で、英語でコミュニケーションをするために基礎的な知識・技能は必要である。十分身に付いていない子供については、ICT 器機を活用して、学校だけでなく家庭でも学習できる環境を整えることが必要だと考えている。身に付いた学びを活用・発揮していくことで、自己の成長を実感したり、ウェルビーイングにつながっていったりすると考える。

外国語の本質である外国語を使ってコミュニケーションをとることは、子供の学ぶ楽しさや学んだことを活かした実感を得ることができ、ウェルビーイングにつながっていくと考えられる。